

「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」大会報告(別冊)

I 第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」

1. 大会概要

(1) 大会開催期日

令和7年9月28日(日)～10月8日(水)

〔会期前:9月6日(土)～15日(月)、9月21日(日)～9月25日(木)〕

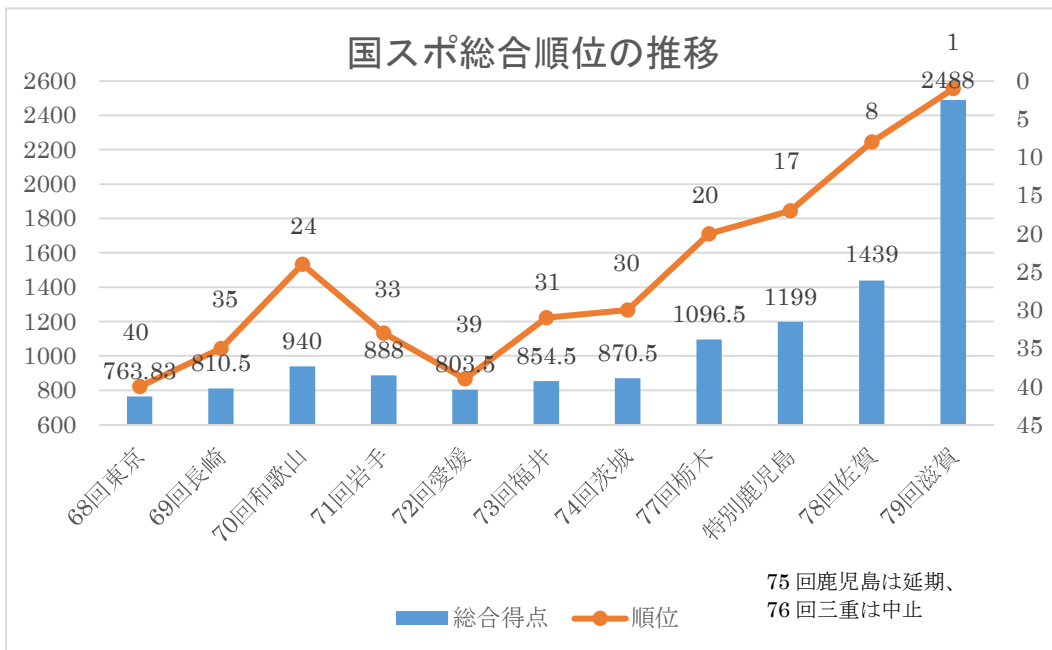
(2) 滋賀県選手団概要(本国スポ)

本部役員:52名(帯同ドクター18名含む) 監督:105名、選手844名 計1,001名

(3) 今大会の成績

男女総合(天皇杯)成績 1位 2,488.0点 女子総合(皇后杯)成績 1位 1,244.5点

目標		結果	(参考:R6 結果)
総合成績(天皇杯順位)	1位	1位	(8位)
本国スポ入賞数	205種目以上	210種目	(127種目)
成年種別獲得得点	1,350点以上	1,441.0点	(637.5点)
少年種別獲得得点	750点以上	647.0点	(401.5点)



悲願であった「男女総合優勝(天皇杯獲得)」に併せて「女子総合優勝(皇后杯獲得)」を達成、「滋賀県競技力向上基本計画」に掲げた目標の実現に至った。

なお、開催県の男女総合優勝(天皇杯獲得)および女子総合優勝(皇后杯獲得)は、いずれも第74回国体(茨城県)以来、4大会ぶりである。

今大会での各目標については、「総合得点」「少年種別得点」では目標に届かなかったものの、「入賞数」「成年種別得点」では目標を上回った。

2. 結果分析

(1) 種別

成年種別では、総獲得得点のうち「スポーツ特別指導員」が関わる競技・種目で計 565.5 点（成年総得点の 39.2%）を、ふるさと選手が関わる競技・種目で計 655.0 点（成年総得点の 45.5%）を獲得、選手確保策の成果を発揮することができた。

少年種別では、高校生トップアスリート支援事業でサポートを行った選手が関わる競技・種目で計 367.5 点（少年総得点の 56.8%）を獲得、ターゲットエイジとして育成・強化してきた選手との切磋琢磨を通じ、チーム力の向上にもつなげることができた。

種別	滋賀県の競技得点（入賞数）					東京都
	74 茨城国体	77 栃木国体	特別鹿児島国体	78 佐賀国スポ	79 滋賀国スポ	
成年男子	135.5 (17)	242.5 (37)	313.0 (35)	366.5 (49)	783.5 (88)	643.5 (54)
成年女子	112.5 (12)	185.0 (22)	256.0 (31)	271.0 (35)	657.5 (63)	412.83 (46)
少年男子	166.5 (21)	196.0 (27)	166.5 (25)	275.5 (31)	420.0 (43)	532.5 (59)
少年女子	56.0 (7)	73.0 (9)	63.5 (8)	126.0 (12)	227.0 (16)	365.5 (36)
競技得点計	470.5 (57)	696.5 (95)	799.0 (99)	1,039.0 (127)	2,088.0 (210)	1,954.33 (195)
参加点	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0
合計	870.5 (57)	1,096.5 (95)	1,199.0 (99)	1,439.0 (127)	2,488.0 (210)	2,354.33 (195)

(2) 得点分類別

総合優勝に向け最重要ポイントであったチーム競技（3 倍・5 倍・8 倍）において、予選免除で出場できる開催県のメリットを最大限享受し、大幅な得点増加を果たしたことが、天皇杯・皇后杯獲得の大きな要因となった。

開催年を迎え実施した、強化事業の質・量の充実に加え、「スーパーアドバイザー招聘事業」による全国レベルの指導者の関与を最大化するなどの施策を通じ、大会直前期における競技力の底上げを効果的に図ったことが、結果につながった。

得点分類	滋賀県の競技得点（入賞数）					東京都
	74 茨城国体	77 栃木国体	特別鹿児島国体	78 佐賀国スポ	79 滋賀国スポ	
1 倍種目	193.5 (41)	352.5 (80)	363.0 (75)	478.5 (100)	779.5 (151)	742.33 (139)
3 倍種目	129.0 (11)	84.0 (7)	190.5 (15)	307.5 (18)	480.0 (29)	562.5 (35)
5 倍種目	100.0 (4)	160.0 (6)	197.5 (8)	145.0 (7)	552.5 (23)	457.5 (17)
8 倍種目	48.0 (1)	100.0 (2)	48.0 (1)	108.0 (2)	276.0 (7)	192.0 (4)
競技得点計	470.5 (57)	696.5 (95)	799.0 (99)	1,039.0 (127)	2,088.0 (210)	1,954.33 (195)
参加点	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0
合計	870.5 (57)	1,096.5 (95)	1,199.0 (99)	1,439.0 (127)	2,488.0 (210)	2,354.33 (195)

(3) 競技別得点 (過去 10 大会)

競技別得点 (過去10大会・滋賀県)

競技名 (得点倍数)	69回	70回	71回	72回	73回	74回	77回	特別	78回	79回	79th・東京
陸上 1	23.0	13.0	18.0	12.0	39.0	12.5	69.0	55.0	51.0	76.0	82.3
水泳 1-5	13.0	9.0	14.0	23.0	4.0	22.0	34.5	28.5	36.0	76.5	314.0
サッカー 8											84.0
スキー 1							3.0	11.0	16.0	41.0	3.0
テニス 3			21.0						33.0	45.0	15.0
ローイング 1-5	25.0	84.0	76.0	84.0	27.0	58.0	64.0	135.0	108.0	117.0	140.0
ホッケー 8	20.0	104.0	84.0		152.0	48.0	100.0	48.0	108.0	160.0	
ボクシング 1									(未開催)	29.5	18.5
バレーボール 3-5	17.5	35.0	30.0	37.5	7.5	40.0	25.0			50.0	22.0
体操 5			5.0							63.0	25.0
バスケットボール 5						27.5	40.0	35.0		40.0	40.0
レスリング 1	26.0	23.5	28.5	29.5	23.5	22.5	35.0	13.5	34.0	66.5	55.0
スケート 1				5.0	1.0	12.0	24.0	11.0	30.0	72.0	92.0
セーリング 1-3	15.0	5.0	4.0	13.0	17.0	5.0	32.0	33.0	43.0	57.0	37.0
ウエイトリフティング 1	31.0	9.0	21.0	10.0	29.0	40.0	45.0	52.0	43.0	43.0	78.0
ハンドボール 5										12.5	12.5
自転車 1-3				6.0				8.0	10.0	41.0	14.0
ソフトテニス 5									15.0	25.0	10.0
卓球 3										28.5	0.0
軟式野球 8											64.0
相撲 3-5											
馬術 1	15.0	27.0	39.0		15.0	7.0	45.5	40.0	84.0	118.0	29.0
フェンシング 3										48.0	66.0
柔道 5			7.5	25.0			42.5	52.5	47.5	110.0	70.0
ソフトボール 8				44.0						88.0	
バドミントン 3				15.0				28.5	25.5	52.5	28.5
弓道 3					13.5	18.0		9.0		33.0	12.0
ライフル射撃 1	23.0	25.0	14.0	10.0	15.0	24.0	35.0	57.0	82.0	70.0	23.0
剣道 3-5										134.0	92.5
ラグビーフットボール 5-8									20.0	70.5	74.0
スポーツクライミング 3					30.0	21.0		27.0	36.0	48.0	105.0
カヌー 1-3	117.0	120.0	50.0	58.0	59.0	76.0	62.0	71.0	101.5	111.0	36.0
アーチェリー 3	42.0	66.0	57.0	3.0			18.0	21.0	45.0	51.0	12.0
空手道 1.5		2.5		2.5				22.0	15.5	26.5	76.5
銃剣道 3	15.0		(未開催)	21.0	(未開催)	(未開催)				24.0	18.0
クレー射撃 3				(未開催)			(未開催)	(未開催)	15.0	(未開催)	
なぎなた 3											72.0
ボウリング 1-3	3.0	7.0			12.0	17.0	15.0	33.0	33.0	26.0	30.0
アイスホッケー 5	25.0	10.0	15.0	5.0	10.0	20.0				20.0	50.0
ゴルフ 3											31.5
トリアスロン 1	(未開催)	(未開催)	4.0				7.0	8.0	7.0	14.0	22.0
合 計	410.5	540.0	488.0	403.5	454.5	470.5	696.5	799.0	1039.0	2088.0	1954.3

※網掛け(緑)は、過去 10 大会で 6 回以上、(黄)は過去 5 大会で 3 回以上入賞実績のある競技

79 回(滋賀)の欄 網掛け(オレンジ)は競技別天皇杯獲得競技、点数の太字は競技別総合成績 8 位入賞競技

(4) 総括

今大会での天皇杯・皇后杯の獲得は、これまで各競技団体とともに計画的に進めてきた選手強化策が実ったものであるが、前述の強化策以外にも下記の点が奏功したものとする。

① 目標の共有

県全体で「総合得点 2500 点」を獲得するための指標として「獲得必須得点」を設定し、全競技団体と共有したことにより、自競技だけでなく他競技への関心の高まりや、相互に補い合おうという意識の醸成につながり、結果として県全体で想定していた得点をほぼ獲得することができた。

② 競技団体との綿密な情報共有

第 78 回国スポ（佐賀県）以後、競技（種別・種目）毎に対策本部担当職員を交えての会議（PT 会議）を頻繁に実施した。これによりロードマップの進行管理や事業実施にあたっての課題共有、選手の所属元や施設管理者等関係各所への依頼、選手のコンディション情報の共有につながり、課題への即時対応を行うことができた。

③ 所属元の協力

「選手強化メンバーリスト」を所属元と共有することで、学校や警察などに所属する選手や強化スタッフについては公欠・職専免等の配慮をいただくことができた。

企業等に所属する選手についても同様に、時短勤務や強化練習への参加への配慮をいただき、結果として強化事業の質・量の向上につながった。

④ 医科学サポートの活用

特にトレーナー派遣については、競技団体の希望にできる限り応えることで、代表選手の多くが大きなケガなく本番を迎えることができた。

⑤ スポーツ特別指導員による県内選手への指導など事業への積極的協力

「スポーツ特別指導員」を個人技能の要素が高い 1・3・5 倍競技に配置、当該競技の選手に対する指導に積極的に関与することで、選手団全体の競技力の底上げに寄与することができた。併せて、メディアでの発信や地域イベントへの積極的参加を通じ、開催市町における指導員の認知向上、機運の高揚につながった。

⑥ 観客の応援による後押し

国スポ期間中、いずれの会場でも大勢の関係者（保護者・学校・職場・地域など）による大応援があり、選手・監督に対し勇気や最後まであきらめない気持ちを与えていただいた。

3. 令和 8 年度以降の展望について

今大会の成果をもとに競技水準の維持を図るとともに、国スポに向けた競技力向上の取組過程において得られたヒト・ノウハウや整備の進んだ施設などの競技環境を活かし、県民の皆さんが年齢や体力、意欲に応じてスポーツに親しみ、挑戦することができる機会の創出とそれを支える基盤の整備に取り組むことで、同大会のレガシーの継承・発展につなげてまいりたい。

Ⅱ 第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」結果概要

1. 大会概要

(1) 大会開催期日

令和7年10月25日(土)～10月27日(月)

(2) 滋賀県選手団概要

本部役員:4名、監督・コーチ等:143名、選手288名 計435名

(3) 今大会の成績

金メダル:87種目、銀メダル:53種目、銅メダル:34種目 計174種目

(参考:前回(R6)佐賀大会 金メダル20種目、銀メダル15種目、銅メダル12種目)

【出場競技別選手数の推移】

		栃木大会	鹿児島大会	佐賀大会	滋賀大会
陸上競技	(身体)	4	4	6	28
	(知的)	6	6	8	29
水泳	(身体)	2	2	1	10
	(知的)	2	2	3	10
アーチェリー	(身体)	1	1	1	5
卓球 (サントテーブル テニス含む)	(身体)	2	2	3	10
	(知的)	2	2	2	11
	(精神)	1	1	3	6
フライング ディスク	(身体)	2	3	3	10
	(知的)	3	2	3	12
ボウリング	(知的)	2	2	4	9
ボッチャ	(身体)	2	2	4	6
バスケットボール					男子12, 女子10
車いすバスケットボール					11
ソフトボール		14			15
グラウンドソフトボール		12		12	12
バレーボール	(身体)				男子12, 女子10
	(知的)				男子12, 女子8
	(精神)				9
サッカー					16
フットソフトボール					15
計		55	29	53	288
大会新記録		1	3	2	14
自己新記録		11	8	14	

2. 結果総括と今後の展望

- ・ 目標としていた「全種目出場」を達成するとともに、練習会の充実等の支援のもと、それぞれの選手がベストを尽くした結果、個人競技では173個のメダルを、団体競技ではバレーボール(身体障害)男子が銅メダルを獲得、過去最高の獲得数となった。
- ・ 大会に向けた選手育成・強化の成果を継承し、障害のある人の「する」・「みる」・「支える」を推進、スポーツを通じた共生社会の実現につなげてまいりたい。